

テーマ 伝統文化からつなぐ 多様性の豊かさ

豊川小学校
第五学年
児童

I このテーマの記事を選んだ理由を書いてください。

ぼくは、一年生の時から、書道が続けていて現在週二回通っている。ぼくは筆で字を書くのが楽しい。筆で書くと、太い、細い、濃い、薄いを表現できるところに力を感じている。4年生の国語の学習で、世界にほころ和紙の文化について学んだ。ぼくは、日本の色々な伝統文化に興味をもったので、この記事を選んだ。

II 比べる記事のそれぞれの内容について分かったことを書いてください。

①について 書道がユネスコの無形文化遺産登録を申請する候補に選ばれた。書道は、筆や硯などの用具を使って手書きにする文字表現で、日本文化の多様性や深みを世界に広く発信していく点から判断された。26年の勧告を経て、秋に結果が出る身込みと説明されている。

②について 1830年創業の置表店だったが、1980年代、白木屋の筆は売れなくなかった。しかし、今は、客がじわじわ増えてきている。中村さんは、人の手で掃除をするから、そ得られる心地良さがあり、『選択肢の多々』は、文化的に豊かである象徴だ。と説明されている。

①と②を比べて分かったこと、自分で調べてみたいこと。①は、手書きの文字表現が日本文化の多様性を表わし、世界的に認められる可能性がある。②は、人の手で掃除する心地良さから今も売れている。ともに、浸透した伝統文化で、パソコンや掃除機がある現在でも大切に使われている。書道用具を作っている職人の思いを調べたい。

III テーマについて、自分の考えや他の人と交流をして気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。

ぼくは、春休みに祖父母の住む山口県へ行き、宇部市の赤間硯の生産地をおとずれた。ぼくは、工房の中へ入ってもらい、職人さんから選別した後、形作り、じぎり、ふち立て、粗彫り、仕上げ彫、精磨き、仕上げ磨き、仕上げをして一つの硯ができることを知った。職人さんは、書く人のことを考えて作っていると話してくれた。また、2ヶ月まで住んでいた高知県へ行き、いの町では土佐和紙の紙漉き体験をした。コウゾ、みつまたなどの原料から様々な工程を経て和紙ができることを知った。硯も和紙も職人の努力があってぼくは、毎回筆で字を書いていることに気がついた。生活の中で、パソコンを利用することも多く、便利だと感じているが、職人の思いに感謝しながら書を今後楽しみたい。機械にたよることなく自分の手で書くからこそ得られる心地良さがある。選択肢の多々は、豊かな文化の証だと考える。ぼくは、このような日本の文化を世界に発信していきたい。